

主体性を育む理由…！

～ 年度始めに示した経営方針の補足説明です。～

小学校では、幼児教育（こども園等）において育まれた資質・能力（下記参照）を踏まえて児童が**主体的に学び**に向かうことが可能となるように教育活動が実施されます。

そこで、おひさまこども園では、子どもの「見てみたい」「知りたい」「やってみみたい」などの好奇心を大切にする「**主体性**を育む教育・保育」を取り入れています。なぜか！そのわけは、

👉 「周りの意見や指示などに頼らず、自らの判断・考えに基づいて行動する、つまり、主体性をもって課題や困難を乗り越え**生き抜く人間**」に育ててほしいからです。

主体性の反対は、「受動性」で“指示待ち”“思考停止”を意味します。主体性は、自らのエンジンで動く「飛行機」、受動性は、引いてもらって飛ぶ「グライダー」に例えることができます。私たちは、一人一人の子どもが、用意されたものがなければ習得できない受動的な「グライダー人間」ではなく、自分の頭で考え、自力で飛び回れる「飛行機型人間」になってほしいのです。

そのために、次に示す3つの力（資質・能力）を育むことに努めています。

その1 👉 園児が自ら感じたり、気付いたり、分かり、できるようになること
（知識及び技能の基礎）

その2 👉 気付いたことやできるようになったことを使い、考えたり、試したり、工夫し、表現すること
（思考力、判断力、表現力等の基礎）

その3 👉 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること
（学びに向かう力、人間性等）



輪投げに挑戦！

現代は「予測困難な時代」「社会が非連続とも言えるほど劇的に変化する時代」です。子どもたちが大人になる20年後、30年後には、我々の予測がつかないような世界になってもおかしくありません。そのような世の中でも、一人一人がおひさまこども園の**主体的な活動**等で培った**人間力**を発揮して**生き抜いて**くれることを期待しています。

【裏面に続きます】

ここに、カニがいたんだよ！



教えてもらいました！

「大人になると1年が短くなるのは、なぜ？」

それは、「トキメキが、なくなるから！」

大人になると、子どもと同じ時間でもトキメクものが少なるからです。そして、19歳頃からトキメキが少なくなります。

しかし、トキメキを感じることを多くすると1年が長くなります。

では、トキメキを感じるものとは？

子どもと遊ぶ！ 習い事を始める！ など



学校は、夏休みに入りました。お子さんと遊ぶ時間を増やすチャンスです！



お願い

夏休みに入り、家族で行楽地や海・川などの出かけることが多くなると思います。お子さんと一緒に、かねてできない体験（主体的な活動）に取り組まれる機会が増えるのではないのでしょうか。そこで、次のことに気を付けて、楽しい思い出の1ページにしてください。

- 1 外出先では、お子さんから目を離さない。
※ 海・川・山では、お子さんの動きを常に見守りましょう。
- 2 熱中症に気を付ける。
- 3 新型コロナウイルス感染予防に努める。
※ 先にコドモンで配信した文書「新型コロナウイルス感染拡大防止について」や県からのパンフレット「夏の感染防止対策のお願い」を再確認してください。